

# 三浦半島に“はねっ娘会”あり！ 全国にとどけ、われらの野菜！！

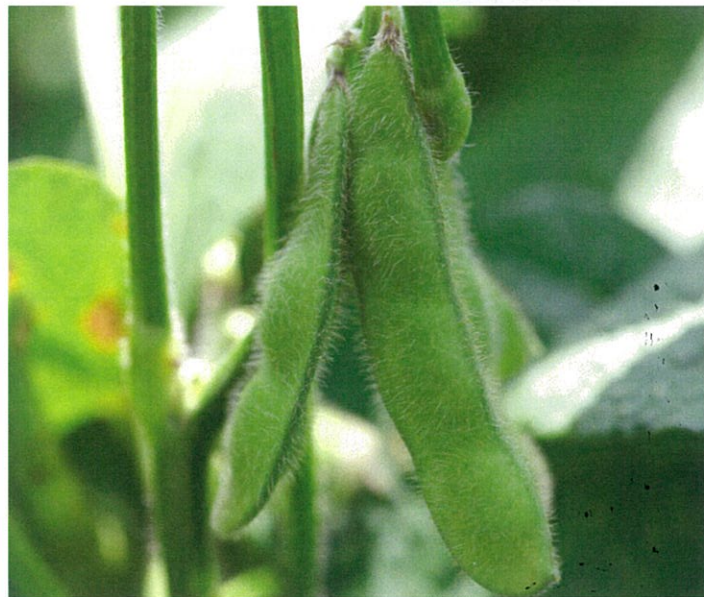


『三浦半島 はねっ娘会』は、もともと七草を栽培していた5軒の生産者が、枝豆の栽培を始めたことをきっかけに立ち上げられました。今回ははねっ娘会の後継者である鈴木さん、松原さん、岩崎さん、原田さん、岡本さん(写真左側から)に出演していただきました。三浦半島の温暖な気候を活かした野菜栽培や、後継者として、そして経営者としての思いを語っていただきました。



## ■三浦半島『はねっ娘会』

「『はねっ娘会』という名称は、私たちの親世代が枝豆の栽培を始めた時に付けました。」  
今回出演していただいた皆さんのご両親は、5軒で七草の栽培グループを発足され、その後同じ5軒で『はねっ娘会』を発足されました。  
「『はねっこ』とは、三浦独特の土の呼び方です。この土で枝豆を栽培すると根付きが良く、強い風にも吹き飛ばされな。とても良い枝豆が出来るし、響きもよいのでちよっとアレンジして『はねっ娘会』と名付けたそうです。」



糖度26度！ 茶豆風味の「はねっ娘枝豆」。

今では主に七草、枝豆、キャベツを栽培されています。  
枝豆は3月上旬から定植が始まり、5月下旬には収穫が始まります。  
「三浦半島は気候が温暖なので、他の産地よりも早くから栽培が始められます。これは大きなメリットです。」  
「はねっ娘枝豆」は、他産地よりも早く収穫されるだけではなく、茶豆風味で美味しく、しかも糖度が26度もあるそうです。  
「色々な品種を試したり、肥培管理を工夫したり、日々試行錯誤しながら美味しい枝豆ができるよう努力しています。」



枝豆の選別・加工・袋詰め。ほとんど全てを手作業で行います。

## ■元肥にも追肥にも マイルド千代田特45号

『はねっ娘会』では、数年前から当社のホルム窒素入りの緩効性肥料『マイルド千代田特45号』が使われています。

「栽培している全ての野菜の元肥として、反当40〜80kg施用しています。キャベツや七草では追肥としても60〜80kg施用します。」

七草の中でもハコベは特に追肥回数が多いのだそうです。  
「播種後1ヶ月くらいで1回目の追肥をします。以前はその後7〜10日間隔で収穫までに5回ほど追肥をしていました。」  
マイルド千代田を使うようになって、追肥回数が減ったそうです。

「今では2〜3回の追肥で済みます。施肥量も減りました。労力を削減できることが大きなメリットです。」

キャベツや七草は、葉が展開したところに追肥します。

「肥料が葉の上に乗ってしまうため、どうしても葉焼けを起こします。ただ、マイルド千代田は他の肥料と比べて葉焼けし難いです。」  
追肥回数と施肥量の削減、さらに葉焼けのない、綺麗な作物を出荷できるようになりました。

## ■後継者として 経営者として

「三浦は比較的農業が盛んな地域で、子供がほぼ跡を継ぐ土地柄なんです。私も子供のころから周りの大人に『お前は後継者になるんだ』と言われて育ちました。」

抵抗は無かったのでしょうか。  
「正直ありました。でも、畑で体を動かしながら仕事するのは気持ちがいいし、お客様に『美味しい』と言ってもらえるとても嬉しいです。収穫は緊張する瞬間でもあります。楽しい嬉しいです。」



三浦の早春キャベツ。収穫間近。



■編集後記  
七草は1月7日に食されます。その日に合わせて出荷されるため、はねっ娘会の皆さんにはクリスマスも年末年始も無いそうです。「紅白歌合戦は?」「それどころじゃありません。」  
これからは年末年始の過ごし方(飲み方?)を改めねば。反省することしきりであります。

「私は就農して15年です。まだ15回しか栽培したことがない。だから毎日勉強だしチャレンジの連続です。はねっ娘会の作物を多くの方に食べていただきたいし、消費者の皆様と顔を合わせることが一番嬉しいことなので、イベントにも積極的に参加したいと思っています。」  
「三浦に後継者として生まれて、今まで5軒みんな頑張ってきました。最初は抵抗もありましたが、みんな楽しんでや辛さを学び、そのおかげで出荷量も増えました。これからは5軒で力を合わせて美味しい作物を作り、今以上に発展できるように、盛り上げていきたいと思っています。」  
「皆さんの言葉の端々に誠実さとひたむきさを感じました。この人たちは必ず美味しい作物を作る。私もお手伝いさせていたきたい。素直にそう思うことができた取材でした。」